

貞本昌規先生への謝恩コンサート

ギターの音楽の400年

- A. ムダーラ
 - L. ナルバエス
 - G. サンス
 - L. ロンカッリ
 - J. マリン
 - F. ソル
 - その他
- ファンタジア (ルドヴィーゴのハープを模して)
 - 皇帝の歌
 - スパニョレッタ
 - パッサカリア
 - 「瞳よ、私を蔑むのなら」
 - セギディージャ「女たちとギターの弦は」
 - エチュード



西野 潤一
Nishino Jun-ichi



武藤 彰良
Muto Akiyoshi



賛助出演：渡邊 沙織 (ソプラノ)
Watanabe Saori (Soprano)

2007年5月5日(土・祝) 午後2時30分開演(2時開場)
乗松巖記念館 エスパス21 (松山市小坂2-4-37)
入場料 1,000円(全席自由)

お問い合わせ: 「杣人」バロック室内アンサンブル(宮武) e-mail: rmmsm-concert@memoad.jp
エスパス21 Tel/Fax 089-934-3621

ひとつこと

ギターという楽器はいつからあったのでしょうか？ 中世の絵画にはギターに良く似た形の弦楽器を胸の前に抱え、プレクトラム（鳥の羽のピック）で弾いている姿が既に描かれています。8の字型の胴と棹を持ち、何本かの弦を張った楽器をギターと呼ぶことにすれば、16世紀の前半にはギターののために書かれた最初の曲集が出版されました。

今日クラシックの分野でギター音楽といえば、6本の弦を持つ所謂「クラシックギター」でどの曲も演奏されてしまうのが常ですが、19世紀以前のギター曲は本来その時代々々の楽器のために作られたものです。

このコンサートではルネサンス、バロック、古典派のギター曲をその時代に使われていた楽器を用いて演奏します。各時代の音楽と当時のギターの組み合わせが醸し出す特別な雰囲気を感じて頂けると幸いです。

(西野 潤一)

プロフィール

西野 潤一 にしのじゅんいち

つのだたかし氏にリュートを師事。リュートによる通奏低音を今村泰典氏、永田平八氏、野入志津子氏より学ぶ。1999年スペイン・ヒホンで開かれた講習会にてパスカル・ボケ氏よりピウエラとルネサンスギターの集中レッスンを受けた。また、歌とのアンサンブルをエブリン・タブ氏、有村祐輔氏、宇田川貞夫氏より学ぶ。15世紀から19世紀のリュート・ギター属楽器を演奏し、歌手とのデュオからバロックオーケストラまで幅広くアンサンブルで活動している。ヴォーカルアンサンブル「コンチェルト・ゼフィロ」リュート・ギター奏者。日本リュート協会会員。兵庫県姫路市在住。

ルネサンスギター 1997年 渡辺広孝作

ピウエラ 1997年 Magherini作

19世紀ギター（ラコートタイプ）1840年頃 作者不詳（フランス・ミルクール派）

武藤 彰良 むとう あきよし

愛知県生まれ。楽器の持つ音色の美しさに魅せられ、大学在学時よりリュートをはじめめる。中川祥二氏より手ほどきを受け、以後、リュート、テオルボ、バロックギター等の撥弦楽器奏法および通奏低音奏法について、佐野健二、竹内太郎、永田平八の各氏より指導を受ける。現在、広島を中心に音楽活動を展開中。日本リュート協会会員。広島県福山市在住。

5コース バロックギター Peter Biffin (Australia) 2004年

14コース キタローネ（ラージ・テオルボ）Klaus T.Jacobsen (London,England) 1983年

渡邊 沙織 わたなべ さおり

愛媛大学大学院教育学研究科修了。在学中に、G.カッチーニを中心としたバロック声楽曲を学ぶ。愛媛県立高等学校音楽教諭。イ・フィオレッティ会員。オペラえひめ会員。愛媛県今治市在住。



<http://www7.ocn.ne.jp/~espace21/>